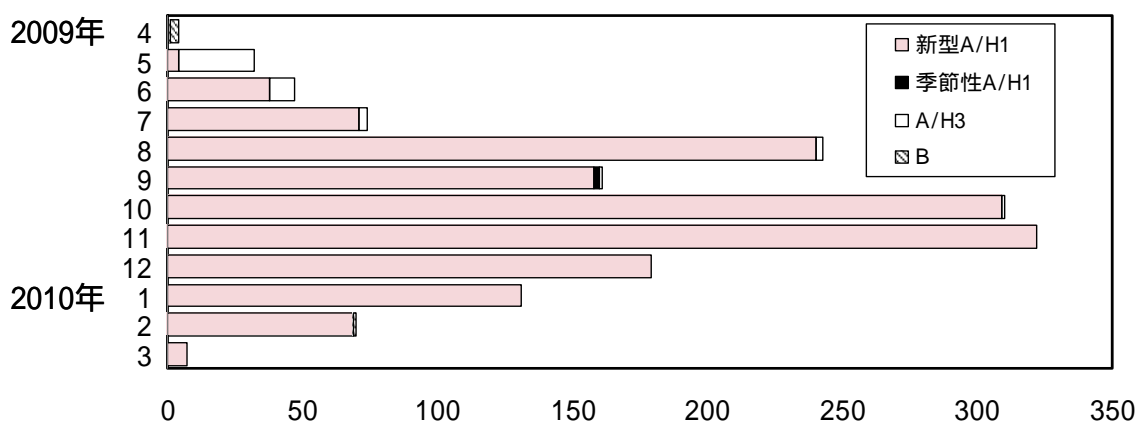


新型インフルエンザ(A/H1N1)

2009年4月にメキシコで確認された豚由来新型インフルエンザ(A/H1N1)ウイルスは、同年5月には国内に入り、埼玉県内でも5月下旬にウイルスが検出されました。6月以降の県内におけるインフルエンザウイルス検出例は、ほとんどが新型インフルエンザウイルスとなりました。全国的にも同様の状況でした。

下図に、昨年4月から今年3月までの埼玉県衛生研究所におけるインフルエンザウイルス検出状況を示しました。



月別インフルエンザウイルス検出状況 (2009年4月～2010年3月)

2010年4月以降、流行は沈静化しているようですが、全国的には新型ウイルスだけでなく、A/H3 亜型及び B 型ウイルスも散発的に検出されています。

現在まで、新型インフルエンザ(A/H1N1)ウイルスには、出現当初と比較して病原性の変化に大きく関わるような変化は認められていません。また、これまで県内の分離ウイルス118株(さいたま市分を含む)についてオセルタミビル(タミフル)耐性の有無を調べたところ、4株の耐性ウイルスが確認されました。全国的には69株(総解析数6089株中の1.13%)の耐性ウイルスが確認されています(国立感染症研究所感染症情報センター、5月7日現在)。

今後もインフルエンザの流行状況を注視すると共に、病原体の発生動向調査も継続していくことが重要です。

病原体定点の先生方には、検体採取を引き続きよろしくお願ひいたします。

インフルエンザに関する最新の全国情報は、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)でご覧になれます。